



## 久しぶりの再会ににぎわう新成人の皆さん

(5月3日 文化会館)

### 主な内容

- 加茂美人の湯 源泉給湯開始…………… ②
- 第43回 雪椿まつり…………… ③⑦
- 成人式に299人が出席…………… ⑧
- 加茂福祉会職員募集…………… ⑨
- 新たに自然環境保全地域を指定…………… ⑩⑮
- 長年の貢献に感謝 春の叙勲…………… ⑯⑰
- 加茂の風土記「上杉景勝時代の加茂城」⑱

# 祝 源泉給湯開始

日本有数の温泉  
効能抜群の複合泉

北越の小京都

加茂美人の湯

源泉は温泉基準の26倍の濃さ！  
お風呂の湯は8.7倍の濃さ！

名峰粟ヶ岳が最も美しく見える場所  
300畳の展望大広間  
加茂料亭組合のおいしい食事



# 第43回 雪椿まつり



ミス雪椿の木村朱美さん、ミス雪椿クイーンの塩澤亜弓さん、ミス雪椿のアンナ エルショワさん

今年の雪椿まつり大園遊会は、暖かい日ざしと満開のユキツバキ、サクラの下で開催されました。会場の加茂山公園野外ステージには大勢の方が集まり、新しいミス雪椿が決まりました。

四十三回を迎えた雪椿まつりは、四月十二日に雪椿杯バレーボール大会とトレジャーハンティング、十九日に大園遊会と雪椿マラソン・市中パレード、二十六日に献花祭、二十九日に市民茶会が開催されました。

## 4月19日、大園遊会

加茂山公園のユキツバキとサクラは満開の時期と重なり、お花見に訪れる人も大勢いました。

大園遊会のメインイベント・ミス雪椿公開審査では、ミス雪椿クイーンに塩澤亜弓さん（阿賀野市）、ミス雪椿に木村朱美さん（長岡市）とアンナ・エルショワさん（加茂市）が選ばれました。アンナ・エルショワさんは新潟経営大学のロシアからの留学生です。この三人からは一年間、観光PRやイベント・セレモニーで活躍していただきます。

アトラクションは、加茂松坂協



握手を交わす小池市長と藤井町長



ミス雪椿公開審査



小池裕明 JR 東日本新潟支社  
営業部販売課長(支社長代理)



坂巻健太新潟県観光局長  
(新潟県知事代理)



菊田まきこ衆議院議員

### 「市中パレード」

大島町との交歓会には、藤井静男大島町長と小池清彦加茂市長とが記念品を交換し、固い握手を交わしました。そして、大島町婦人会の皆さんによる「大島あんこ節」と会場中に響き渡る勇壮な御神火太鼓が披露されました。

野外ステージでミス雪椿の発表が行われた後、JR加茂駅前からパレードが行われました。新発田駐屯地の第三十普通科連隊のジープに乗ったミス雪椿クイーンの塩澤亜弓さんとミス大島の白井花奈さん、ミス雪椿の木村朱美さんとアンナ・エルシヨワさんには、沿道から大勢の声援が送られました。

このパレードには、県警音楽隊とカラーガードズ、ボーイスカウト、ガールスカウト、交通安全協会、

会の「佐渡おけさ」、金踊会の「いぶし銀」、加茂松坂保存協会とザ松坂の「年輪」の踊りが披露されました。加茂松坂保存協会とザ松坂では、中学生の地方も加わっての出演でした。続く歌謡ショーには、歌手の山本みゆきさんが登場。テレビで観る機会も多く、観客席から大きな拍手が沸き起こっていました。



加茂松坂協会



金踊会



加茂松坂保存協会とザ松坂



雪椿民踊保存会



歌手の山本みゆきさん



水島アナウンサーと山本みゆきさん

交通安全母の会、一栄吹奏楽団、大島町の皆さんと御神火太鼓、少年消防クラブ、下条保育園・須田保育園・本量寺保育園の幼年消防クラブの子どもたちが参加しました。

【雪椿マラソン】

市中パレードの出発前、午後二時三十分にはスタートした中に、今回初めて招待選手が出場しました。ワイナイナ・ジョン・カギア選手（重川材木店）は、ケニア共和国出身で平成十八年に来日。重川材木店所属の陸上選手として国内の陸上競技会や駅伝大会で活躍しています。雪椿マラソンには十kmコースに出場しました。

【2日、トレジャーハンティング】

今年のテーマは「お仕事」。いろいろなお仕事ゲームをクリアして、カモレンジャーカードと交換したり、新しいキャラクターといっしょに写真を撮ったり、暖かくて楽しい一日になりました。

【雪椿マラソン】

市中パレードの出発前、午後二時三十分にはスタートした中に、今回初めて招待選手が出場しました。ワイナイナ・ジョン・カギア選手（重川材木店）は、ケニア共和国出身で平成十八年に来日。重川材木店所属の陸上選手として国内の陸上競技会や駅伝大会で活躍しています。雪椿マラソンには十kmコースに出場しました。



勇壮な御神火太鼓



ミス大島の白井花奈さん



大島町婦人会の皆さん



野外ステージには大勢の観客が集まりました



ミス雪椿のアンナさんと木村さん



ミス雪椿クイーンの塩澤さんとミス大島の白井さん



県警音楽隊とカラーガーズ

【29日、市民茶会】  
 晴天に恵まれた中、青海神社拜  
 殿、貴賓席、杉木立の三席で行わ  
 れ、加茂山公園には和服姿の人が  
 大勢訪れました。初夏を思わせる  
 暖かさの中、静かにいただくお茶  
 にさわやかさを感じるひとときで  
 した。



交通安全母の会



ボーイスカウト・ガールスカウト



パレードのスタート地点となる JR 加茂駅前



加茂市交通安全協会



一栄吹奏楽団



御神火太鼓もパレードに参加



少年消防クラブ



下条保育園幼年消防クラブ



本量寺保育園幼年消防クラブ



須田保育園幼年消防クラブ



12日のトレジャーハンティング



市民茶会・杉木立の茶席



青海神社貴賓席の茶席



青海神社拜殿の茶席

の 貢 献  
ま れ に  
生 全 体  
成 人 決 意  
会 社 2009  
新 社 す 加 茂 市 成 人 式

五月三日、文化会館で成人式が行われました。今年の成人式は、昭和六十三年四月二日から平成元年四月一日までに生まれた人たちで、平成生まれの新成人が誕生しました。式典には、華やかな振り袖や真新しいスーツ姿の新成人二百九十九人が出席し、中学校卒業以来となる友人との再会に話はずんでいました。

式典で小池清彦加茂市長は、易経の「天行は健なり、君子以て自強（じきょう）して息まず」と、論語の中から「仁を以て己が任と為す」の二つの言葉を贈りました。そして、「二十一世紀を背負う皆さん一人ひとりがつもっている平和と自由と権利を大切にしてください」と話しました。

新成人を代表して知野慎也さんが「大不況といわれている今の世



お天気にも恵まれ華やかににぎわう文化会館

の中でも私たち一人ひとりが努力し、社会全体の進歩に貢献できるよう努めるという決意、信念を深く自分の心にとどめることが大切だと思えます」と二十歳の誓いを述べました。

このあと、ステージで卒業中学校ごとに記念写真を撮影し、会場を産業センターに移して、立食パーティーとゲームで楽しみました。



会場の文化会館には 299 人が出席



お祝いの言葉を贈る小池清彦市長



卒業中学校ごとの記念撮影



二十歳の誓いを述べる知野慎也さん



## 第25回雪椿杯争奪

### 加茂市近郷家庭婦人

#### バレーボール大会

期日 四月十二日

会場 勤労者体育センター

参加チーム 県内十七チーム

優勝 豊浦クラブ(新発田市)

準優勝 ほないクラブ(三条市)

三位 白鳩(新潟市)

白根クラブ(新潟市)

#### 〔個人賞〕

最優秀賞 伊藤あゆみ(豊浦ク)

優秀賞 石塚弘子(ほないク)

技能賞 阿部智子(豊浦ク)、長谷川

佳子(ほないク)

敢闘賞 平井敏江(白鳩)、飯尾美佐

子(白根ク)

## 第30回雪椿マラソン

期日 四月十九日

午後二時三十分 JR加茂駅前スタ

ート

出場選手 百六十五人

〔3 kmコース 駅前〜駒岡橋〜陸上

競技場〕▼小学校三・四年男子①風

間航輝(新潟・小林小)②志田昂太

(石川小)③今井康貴(石川小)▼

同女子①吉沢春菜(加茂小)②中林

祥子(石川小)③高橋佳弥乃(加茂

西小)▼小学校五・六年男子①菊池

柊也・最優秀選手賞(五泉少年マラ

ソンクラブ)②田澤悠大(加茂南小)

③遠藤陸(五泉少年マラソンクラブ)

▼同女子①高科唯・最優秀選手賞

(五泉少年マラソンクラブ)②大湊

彩映(羽生田小)③松井由莉(五泉

少年マラソンクラブ)▼中学女子①

加藤麻美子(小須戸中)②佐々木美

希(五泉北中)③中島梨花(小須戸

中)▼一般高校女子①波塚美奈子

(GTR)②鶴巻ジュディ(ア拉里

ヤ)③高橋早苗

〔5 kmコース 駅前〜小貫橋〜陸上

競技場〕▼中学男子①小林宅哉(三

条市栄中)②眞柄幸季(葵中)③山

崎友太(亀田中)▼一般高校男子①

萩野忠幸(西蒲原土地改良区)②金

子久範(F・R・C)③齋藤和徳(F・

R・C下田支部)▼壮年(40歳以上)

①田代修(京ヶ瀬ACC)②丸山均

(新潟市)③阿部光雄(須田小教)

〔10 kmコース 駅前〜七谷大橋〜陸

上競技場〕▼招待選手 ワイナイ

ナ・ジョン・カギア選手(重川材木

店)29分40秒▼一般高校男子①羽田

清悦(新潟経営大)②近藤貴広(J

A南蒲)③坂田洋史(加茂暁星高)

## 訪問看護師募集

勤務先 訪問看護ステーション

資格 昭和24年4月2日以降生

まれて看護師免許と自動車普通免

許を有する人。

賃 金 時給2千円

勤務時間 1日6時間

申し込み・問い合わせ 市販の履

歴書に必要な事項を記入し、在宅介

護・看護支援センター(☎41-4

032)

## 加茂福祉会 職員募集

12月採用予定の加茂福祉会職員  
を募集します。

勤務施設 平成園、第二平成園、

第三平成園の法人職員として、い

ずれかの施設に配属されます。

採用条件 ①介護職員は早出、遅

出、夜間勤務等あり。②看護師・  
准看護師には早出、遅出勤あり。  
③採用前の事前研修に参加。④通  
勤可能な人  
給与等 社会福祉法人加茂福祉会  
の規則による。定期昇給のほか、  
期末、勤勉手当と、状態により扶  
養、通勤、住居、特殊業務手当を  
支給。  
受験手続き 市販の履歴書に必要  
事項と左上に職種(例・看護師)  
を記入し、自動車普通免許証の写  
し、80円切手をはり、あて先明記  
の返信用封筒(定型)2通、写真  
2枚(1枚は履歴書にはり、1枚  
は添付)を提出。  
受付 8月10日(月)まで  
第1次試験/会場 8月29日(土)  
午前10時/文化会館  
提出先・問い合わせ 社会福祉法  
人加茂福祉会(第二平成園内☎41  
-4031)

試験職種	採用人員	受験資格(いずれも取得見込みを含む)
看護師	3名程度	看護師または准看護師と自動車普通免許を有する人。
准看護師	3名程度	有する人。
機能訓練指導員	1名程度	理学療法士または作業療法士と自動車普通免許を有する人。
介護職員	10名程度	自動車普通免許を有する人。

# 市政報告

加茂市長 小池清彦

新たに自然環境保全地域を指定いたしました。

加茂市は、日本一効力のある自然環境保全条例を持っております。

この条例は、加茂市のシンボル猿毛山が採石による消滅の危機にさらされたとき、市議会でも可決され、平成八年二月二十九日に公布・施行されたものであります。

この条例に基づき、平成九年七月二十八日、猿毛山自然緑地・景観保全地域が指定されました。

た。

この条例では、保全地域においても、樹木は、いくら伐採しても、植栽してもよく、建築物等も原則として建築してよいことになっておりますが、その一方で、宅地の造成、土地の開墾、土石の採取集積その他土地の区画形質を変更する行為は禁止され、市長の許可を受けなければ、これを行うことはできないことになっております。

このため、この条例が制定されて以来、加茂市の山林においては、自然を破壊する行為、土石の採取集積、産業廃棄物の投棄・埋立て、産業廃棄物処理施設の設置等は、一切行われず今日に至っております。

このような行為を保全地域外で行おうとする

照会は、加茂市に対して、たびたびなされてきました。このような照会をする者に対しては、加茂市は、もしそのような行為が行われようとするならば、その場所を保全地域に指定することにならざるをえないであろう旨を伝え、相手方はその行為を自粛したのであります。

ところが、このたび、七谷の市道黒水土倉線の沿線において、産業廃棄物処理施設を設置しようとする会社が現れ、これを取りやめていただきたいとの加茂市の要請に応じていただけないものですから、このたび、自然環境保全審議会にお諮りして、平成二十一年五月十三日付でその区域を「薬師山麓自然緑地・景観・歴史環境保全地域」に指定いたしました。

指定の告示の内容は、広報かもお知らせ版四月十五日号で皆様にお知らせしたところでございますが、このたびあらためて、次に掲げさせていただきます。

なお、今後においても、加茂市において、自然破壊、産業廃棄物の投棄・埋立て、産業廃棄物処理施設の設置等が行われることを防止するため、自然環境保全地域をさらに広げていきたいと考えております。

# 加茂市告示第三十号

## 自然環境保全地域の指定について（公告）

加茂市自然環境保全条例（平成八年条例第一号）第八条第一項の規定により、次のとおり自然緑地保全地域、景観保全地域及び歴史環境保全地域の指定を行うため、同条第三項に基づき次のとおり公告し、縦覧に供します。

平成二十一年四月十六日

加茂市長 小池清彦

### 一名 称

薬師山麓自然緑地・景観・歴史  
環境保全地域

### 二 区 域

加茂市大字黒水字岩野地内の  
うち、次のとおりとする。

保全地域に含まれる地番 〔大字黒水〕 三三〇・一、三三四・一、三四 一・一、三四二、二二四一、二 二四三、二二四四、二二四五
--

なお、区域の面積は四・五二ヘ  
クタルである。

### 三 指定の理由

(1) 加茂市は、北越の小京都と呼ばれる優れた自然的・歴史的環境と景観を有するまちである。加茂市民の幸福を確保するためには、この環境と景観を守ることが必要不可欠なことである。また、この環境と景観は、人類共通の財産であり、加茂市民は、この環境と景観を守る義務を負っているものと思料される。

(2) 平成八年一月下旬、加茂市のシンボル猿毛山（標高326・7メートル、猿毛岳ともいう。）

が採石による消滅の危機にさらされていることが判明し、これを防止する必要がある。このことを契機に加茂市の良好な自然環境と景観を守るため、同年二月二十八日加茂市自然環境保全条例が市議会で可決され、同年二月二十九日公布・施行された。

(3) 加茂市自然環境保全条例（以下「条例」という。）は、「この条例は、市のすぐれた自然を市民ぐるみで愛護し、その景観を保全することによって自然と市民生活の調和を維持増進することを目的とする。（第一条）」とし、「自然環境の保全は、自然環境が人間の健康で文化的な生活に欠くことのできないものであることにかんがみ、広く市民がその恵沢を享受するものであつて、すべての市民は将来にわたり自然環境の保全に努めなければならない。（第二条）」ことを基本理念としている。

(4) この条例に基づき、平成九年七月二十八日猿毛山自然緑地・景観保全地域が指定された。

(5) この条例は強い効力を有するものである。即ち、樹木は、いくら伐採しても、植栽してもよく、自然環境の保全に影響を及ぼすおそれなければ、建築物等を新築、改築又は増築してもよい。その一方で、宅地の造成、土地の開墾、土石の採取集積その他土地の区画形質を変更する行為は禁止され、また、産業廃棄物の投棄・埋立て、産業廃棄物処理施設の設置等は、土石の集積、土地の区画形質変更として、禁止され、市長の許可を受けなければ、これを行うことはできないことになっているものである。

(6) このため、この条例が制定されて以来、加茂市の山林においては、自然を破壊する行為、土石の採取集積、産業廃棄物の投棄・埋立て、産業廃棄物処理施設の設置等は、一切行われず、今日に至っている。このような行為を保全地域外で行おうとする照会等は、加茂市に対して、たびたびなされて来たが、このような照会をする者に対しては、加茂市は、もし、そのような行為が行わ

れようとするならば、その場所を保全地域に指定することにならざるをえないであろう旨を伝え、相手方はその行為を自粛したのであった。

(7) 一方K社は、この条例が制定される以前から、本件土地において、土石の採取を行っていたため、加茂市は、あえて本件土地を保全地域には指定せず、他方で、K社に対し、土石の採取をできるだけすみやかに終了して、山林に戻すよう求めて来たのであった。

(8) ところがK社は、本件の土石の採取を終了して、植林し、山林に戻すこととしたとき、その後一旦植栽した樹木を伐採して、新たに産業廃棄物処理施設を設置し、油圧式コンクリート・ジョークラッシュャー（ガラナイザー）を用いて、午前八時三十分から午後五時まで、一日百トンのがれき類及び一日三十トンのガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずを処理することの許可を県に求めたのであった。

(9) この行為が行われる場合は、この土地は、山林の形質を失い、土石は集積され、静かな山に一日中騒音が響き渡り、また城の史蹟である薬師山周辺の歴史的環境と景観が大きく損なわれることになる。

(10) そこで加茂市は、K社に対し、このような行為を行わないよう求めるとともに、県の指導要綱に基づくK社の県に対する事前協議に際し、県から意見を求められた際に、この施設の設置に同意することはできず、当方の不同意について、K社の理解が得られない場合には、この条例の第八条に基づき本件土地を含めた周辺地域を保全地域に指定せざるを得ない旨の意見を県に提出し、県は、この加茂市の意見をK社に伝えたのであった。

(11) しかるにK社は依然として、産業廃棄物処理施設設置の意思を撤回せず、これを実行に移さんとするに至った。もし、これを放置するならば、今や極めて近い将来、産業廃棄物処理施設が設置される事態となつてい

る。

(12) 一たび、この産業廃棄物処理施設が設置されるならば、前述の(9)で述べたとおり、自然的・歴史的景観が大きく損なわれるのみならず、このことを契機として、加茂市において、自然を破壊する宅地造成、土石の採取集積、産業廃棄物の投棄や埋立て、産業廃棄物処理施設の設置等が次々に行われることになるであろう。

(13) 以上にかんがみ、本件地域をこの条例第八条に基づく自然緑地・景観・歴史環境保全地域に指定する必要がある。

(14) なお、本件の指定がなされた場合には、本件の産業廃棄物処理施設の設置は、条例第十二条第一項第一号の「土石の集積」及び「土地の形質の変更」、第三号(1)の「自然環境の保全に影響を及ぼすおそれのある建築物その他の工作物の新築」及び第四号に基づく加茂市自然環境保全条例施行規則（以下「規則」とい

う。）第十一条の二第三号の「廃棄物を処理する施設、機械等を設置すること」に、又場合によっては、規則第十一条の二第二号の「産業廃棄物を投棄又は埋立てすること」に該当し、市長の許可を受けずにこれを行うことはできなくなる。

#### 四 縦覧の期間

平成二十一年四月十六日から五月十一日まで

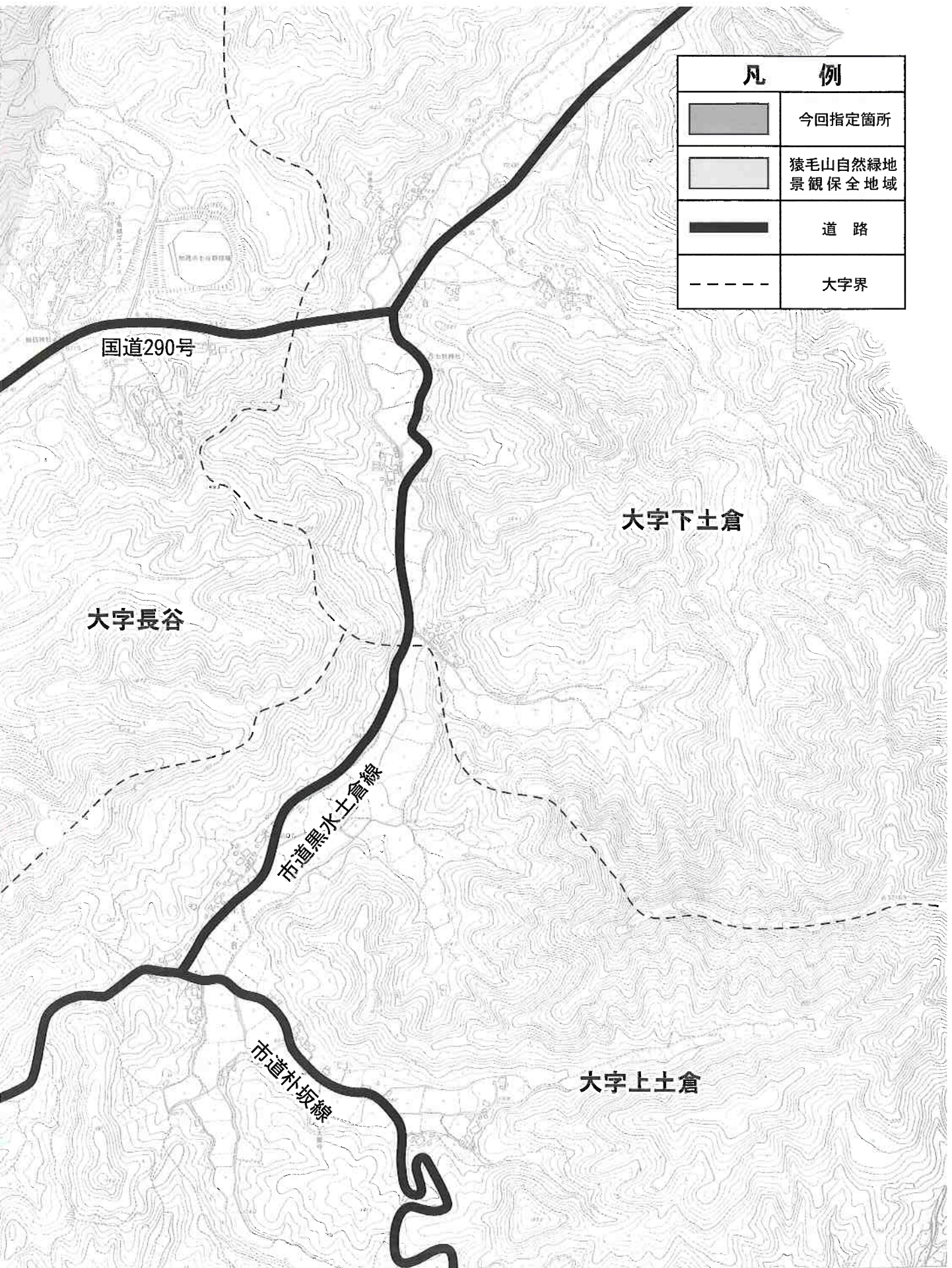
（土・日曜日及び祝日を除く、午前八時三十分から午後五時十五分まで）




#### 五 縦覧場所

加茂市役所環境課

#### 六 その他

縦覧に供された案について、当該区域に関係のある住人及び利害関係人は、縦覧期間満了の日までに加茂市長に意見書を提出することができる。



凡 例	
	今回指定箇所
	猿毛山自然緑地 景観保全地域
	道 路
	大字界



**位 置 図**  
S = 1 : 10,000

大字狭口

**猿毛山自然緑地・景観保全地域**  
A=463.61ha

一級河川加茂川

**今回指定箇所**  
A = 4.52ha

市道黒水長谷線

大字黒水

国道290号

市道黒水土倉線

# 春の叙勲

国や公共のために功労があつたとして春の叙勲において加茂市から五名の方が受章の栄誉に輝きました。その受章の声をうかがいました。

## 瑞宝小綬章

(教育功勞)



藍木新さん  
(矢立・71歳)

「思いがけないことで実感がわかなかつたが、時間が経つにつれ大変光榮に思う。まさかのことで多くの先輩、同僚、周りの方々のご指導、ご支援のおかげ」と、受章に際し感謝します。

阿賀野市出身の藍木さんは、高校の教員生活を松代高校から始めました。小規模校ながら「我慢強

くて素直な子どもたちや職員、地域の人たちに恵まれ、教員として育ててもらつた。非常に感謝している」と振り返ります。

その後、昭和四十一年から加茂高校に十三年間勤務しました。その印象を「市民性もあるが、穏やかでまじめな生徒が多く、退職後もクラス会に呼ばれてうれしい。水害から見事に復興した」と言

います。八回も転勤を経験しましたが、その土地の良さを理解するために「小路を歩いたり自転車でするのが好き」ということです。

三条高校、長岡大手高校などを勤務後、村上女子高と十日町高校長を務めました。教員退職後は、新潟県私立中学高等学校協会事務

局長を六年務め、現在は本を読んだり音楽を聴いたり、博物館巡りや碁、盆栽が好きで楽しんでいきます。

## 瑞宝双光章

(消防功勞)



青木亮太さん  
(上条・71歳)

青木さんは、昭和四十一年に当時消防ポンプ車を運転できる人が少なく消防団に勧誘され、以来平成十九年までの四十一年間に、消防団長六年や副団長九年などの要職を歴任しました。

今回の受章は「私みたいな者がもらうのは恥ずかしいが、皆さんから応援していただき助けてもらったおかげ」と感謝の弁です。

幾多の火災現場における陣頭指揮はもちろん、近くは七・一三水害時の信濃川氾濫危険箇所豪雨の中、三時間以上に及ぶ過酷な土のう積み活動など、その明快な洞

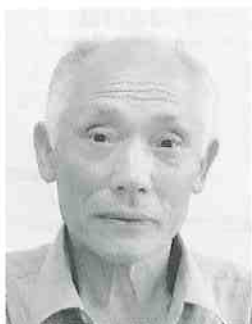
察力に基づく素早い判断力は高く評価されています。「風や雨、雪に神経を使った」と、特に正副団長時代を振り返っています。

また、消防団員の資質向上を図るため教育訓練部の編成や防火思想の普及についても年末年始や春の山火事、秋の防火広報、防火チラシの全戸配付など市民の防火意識の高揚に努めた結果、平成十八年から翌年にかけて四百九日間無火災という名誉の記録を樹立しました。

区長としても、今年三月まで十年九か月にわたって市行政に多大な貢献をし、現在は田や山の仕事に精を出しています。

## 瑞宝单光章

(伝統工芸業務功勞)



松平重政さん  
(赤谷・75歳)

受章の感想を「まさか叙勲なんて夢にも思わなかつたが、周りか



ら「おめでとう」と言われ実感がわいてきた。金婚式を来年に控えて最高の思い出ができた」と喜んでいきます。

松平さんは、旧栃尾市の農家の八人兄弟の次男に生まれ、「小さいころからモノづくりが好きだった」ため、桐の原木を仲買している人から父親にたんす職人の仕事をもちかけられ、父の勧めに「二つ返事でOKした」ということです。

弟子っ子と言われた修業時代も先輩に生家近くの知人がいて、不思議と苦しいと思うことはありませんでした。以来、たんす職人として六十年の今も現役ですが、この間に伝統工芸士に認定され、経済産業省関東経済産業局長賞にも輝きました。嫁いだ二人の娘に贈った桐たんすは「今も大事にしてくれている」と目を細めます。

そして「子どものころ加茂にもあった桶屋、からかさ屋、下駄屋などはなくなりましたが、二百年以上の歴史を誇る桐たんすは守らなければならぬ。今後も無理をしない程度に仕事は続けたい」と伝統の技を守る決意です。

## 瑞宝単光章

(消防功労)



樋口 誠吾さん  
(赤谷・66歳)

「まさか叙勲をいただけるとは思ってもおらずうれしい。本当にありがたい皆さんのおかげ」と、危険業務従事者叙勲の受章にあたり素直に喜びを語ります。

樋口さんは、消防本部発足前の昭和三十七年七月に消防職一期生として加茂市消防士を拝命以来、平成十五年に司令長・加茂地域消防署長を最後に定年退職するまで四十一年にわたり勤務しました。

その間、入ってまもなく訳のわからないうちに三八豪雪に直面し、新潟地震や加茂川の連年水害に遭遇しました。消防創成期の少ない人数で「職員一丸となって現場で対応した」と言います。

また、退職まで四十年にわたって火災現場における原因調査係を務めました。火災はいつ起きるかかわからず、そのたびに呼び出しを

受けるため「土日、夏・冬休み、年末年始を含めて家族旅行ができず女房、子どもには悪いことをした」と苦笑いします。

今は、朝起きて晴れていれば三時間以上もウォーキングに出かけた後、読書したり、奥さんと買い物やドライブ、日帰り温泉などを楽しんでいきます。

## 瑞宝単光章

(防衛功労)



菅家 憲一さん  
(西山・61歳)

受章の感想については「国防の一翼を担い職務を全うしてきたつもりだが、それが皆さんの役に立ち認めてもらえたのかなと思う」と静かな語り口です。

菅家さんは、昭和四十二年から陸上自衛隊の新発田駐屯地を皮切りに宇都宮・新町(群馬県)・新発田の各駐屯地に合わせて三十五年勤務し、平成十四年に五十四歳

で定年退職しました。

職務は、第一線で車両を支える整備部門が主でしたが、訓練は当たり前で三日間昼夜兼行で百キロ歩いたこともあり、災害派遣にも行きました。

乾パンを分け合って食べたり、仲間を気づかう団結心は強く「一人は百人のために、百人は一人のために」きずなが深まり、多いときは全国から五百枚もの年賀状を交換したということです。

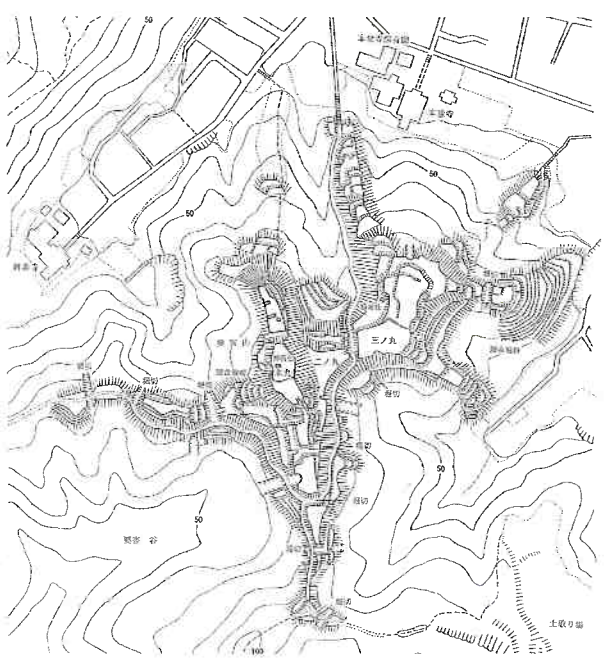
退職後は、「ふるさとの役に立てたら」という思いで、平成十四年の加茂美人の湯オープン時から「安全第一をモットー」にシャトルバス運転に携わる一方、空いた時間に流木を加工したり山小屋を作ったりしています。

# 上杉景勝時代の加茂城 かげかつ

加茂市街の南側根古屋の奥、本量寺と耕泰寺の裏山一带に戦国時代の山城の跡がある。上杉景勝が太田源左衛門など六人の武士を置いた加茂城の跡と思われる。

南小学校裏の横道から急な石段を登り百メートルばかりで新宮稲荷に着く。このすぐ上が三の丸、深い空堀の右手に二の丸、頂上の祠がある。堀場が本丸で、各所に帯曲輪が見られる。加茂山と若宮方面へ延びる二本の尾根には、それぞれ数箇所の空堀が切られ防御を固めている。

## 加茂の風土記



加茂要害山城跡は本丸のほか、堀切と表示される空堀が切られている

天正六年（一五七八）に謙信の急死により景勝と景虎の後継者の座をめぐる「御館の乱」が起こった。この時、加茂城は景虎方の拠点となり、村松地方の菅名綱輔に包囲され、激しい戦の末に落城した（天正八年四月二十二日付綱輔宛景勝文書『加茂市史資料編一』）。

「御館の乱」で勝利した景勝は、越後・佐渡から信濃の川中島四郡と出羽の庄内三郡まで領土を広げ、各地の主要な城を番城と称して城将を置き、そこに武士を配置した。番城

は単に軍事上の重要な所であるばかりでなく、領内の村々を支配する中心地でもある。加茂城は近くの三条城・大面城・菅名城とともに番城とされた。

文禄三年（一五九四）三月の加茂城のメンバーは以下のとおり（『加茂市史資料編一』）。城将は村上出身の流れを汲む本庄豊後守頼長で当時の知行高は二千二百九十八石である。実際に加茂に駐留した番衆が六人。筆頭は知行百石の太田源左衛門といい、埼玉県岩槻城主太田資正の孫。後に清兵衛と名を改め、直江兼統の配下になり百五十石となる。高野与十郎・高橋内記・根岸権三郎・水橋宮内・寺島和泉の五人はいずれも五十二石三斗と同じ知行高の武士である。このうち、高橋内記は後に直江兼統の与板組に配置され、百五十石を支給されている。太田と高橋の子孫は米沢藩で足軽組三十人頭となった。

加茂城は、慶長三年（一五九八）に上杉氏会津への国替えにより廃城となったが、慶長五年（一六〇〇）の「越後一揆」の戦乱では、会津から侵攻した一揆勢の拠点として利用され、再び激しい戦場と化すことになる。

（長谷川昭一）

## 加茂山リス園150万人

加茂山公園にある人気のリス園は開園から17年。春は遠足の子どもたちが大勢訪れますが、5月13日に長岡市の重山さんご家族が150万人目の入園者となり、リス園前で吉田副市長からリスのぬいぐるみと記念品が贈られました。



### 人口のうごき

5月1日現在

世帯	10,092 (-1)
人口	31,190 (-54)
男	15,074 (-15)
女	16,116 (-39)
( )内は前月比	
(4月異動分)	
出生	18 (男8女10)
死亡	24 (男8女16)
転出	107
転入	59

発行 加茂市役所 新潟県加茂市幸町一丁目三番五号 TEL: 0256-0080 FAX: 0256-2729  
編集 総務課  
印刷 榎小野塚印刷所